

大学

アーカイヴズ

全国大学史資料協議会東日本部会会報

2024.3.31 No.70

Japan Association of College and University
Archives : Eastern Japan Division

目 次

・菅原然子「将来の再評価のために ―全国研究会参加記―」	1
・山崎一城「2023年全国大学史資料協議会全国研究会に参加して」	3
・石井七海「第135回東日本部会研究会参加記」	6
・田中宏治「第136回研究会参加記 ―NHK放送博物館―」	8
・全国大学史資料協議会2023年度全国役員会議事録	10
・全国大学史資料協議会2023年度全国総会記録	10
・全国大学史資料協議会東日本部会幹事会議事録	13
・全国大学史資料協議会東日本部会研究会記録	14
・全国大学史資料協議会東日本部会会員名簿	15

2023年10月4～6日（水～金）研究会

将来の再評価のために ―全国研究会参加記―

菅原然子（自由学園資料室）

2023年度全国大学史資料協議会全国大会・研究会は10月4日～6日の日程で京都・立命館大学、京都大学（見学会）で開催され、筆者は4、5日に参加した。

1日目の総会後の記念講演は、立命館大学教授山崎有恒氏による「創立者の再評価にどのように取り組むべきか」であった。立命館大学の創立者・中川小十郎の生涯や業績についてはこれまで、特に戦時中の言動が原因で、ある意味闇に葬られてきた。しかし近年、中川に関する資料が大学へ寄贈され、調査の結果、これまで語られてきた中川像と異なる像

が見えてきた。「歴史を闇に葬ってしまわず、そこにきちんと研究を加え、戦前から現代にいたるまでを一つの流れのある歴史として再確認することは、ひじょうに大事なのではないか」という発議からは、その研究に必要不可欠であるアーカイヴズを扱う責任を、再認識させられた。

2日目、全国研究会の第1報告は「大学史に於ける災害と復旧・整備について―近畿大学の前身校の事例―」というタイトルで、自然災害（室戸台風）や戦時の空襲などによる校舎への被害とその復旧を、さまざまな一次

研究会のみでなく、この9月にリニューアルオープンした立命館大学国際平和ミュージアム1階のわだつみ像、また戦後の立命館大学の学長・総長を務めた末川博の資料を集めた末川博記念館での解説付き見学会では、展示方法などについても多くのインスピレーションをいただいた。また、会期中は平井嘉一郎記念図書館の見学を許可していただき、個人的には加藤周一文庫を見られたことに感動した。今大会の準備・運営・発表を担っ

てくださった皆様に心より感謝申し上げます。



2023年全国大学史資料協議会全国研究会に参加して

創価大学池田大作記念創価教育研究所 山崎一城

今年度の全国研究会のテーマは、「歴史の再評価のために」と発題されました。読み上げられた主旨は、大変に重要な内容を示していると思われましたので、以下抜粋をさせていただきます。

いま私たちの目の前で実行されている取り組みのひとつひとつに対する評価は、いまこの時点の評価によって完結するのではなく、いくつかは、長期的な歴史の文脈の中で再評価されるものであると言えます。

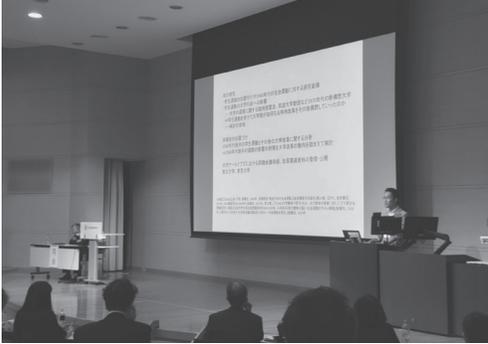
アーカイヴズ部門の大切な役割のひとつは、いままさに進行している歴史の断面とい

える私たちの活動に対する評価を未来に託すことです。

(中略) 歴史とは、現代というフィルターを通して見る過去の像であり、いまこの時点の価値観から独立して語ることはできないものです。その意味で、歴史的出来事を再評価することは、私たちの大学の現代を考えることにもつながります。

私は大学史部門に所属する者ですが、このテーマは全く新たな視点であり、今後考慮に入れておく必要があると思いました。特に、開学より50年程度と歴史の浅い本学に於いては「歴史の再評価」は、まだ先の課題ではありますが、歴史ある諸大学の皆様の研究発表より学ばせていただく機会は大変に有意義であると考えました。特に本年度会場校の立命館大学には、国際平和ミュージアムなど、戦後の歴史資産として注目すべき施設・資料が多く、テーマに即した最も相応しい選択であると思いました。





大学における学生運動と大学改革—1960～70年代を中心に—と題した報告が行われました。東京大学における学生運動の経緯(1968～1969年)の大学紛争の経緯並びに、「東京大学における学生運動と大学改革」、「東北大学における学生運動と大学改革」について、歴史的な経緯に即しての詳細な説明がされました。1960年代後半の学生運動を経て、東京大学においては新キャンパス構想を發展させ、東北大学は新学部設置構想へと發展の歴史につながったと論じられました。

最後に末川記念会館、末川名誉総長メモリアルルームを見学させていただき、「わだつみ像」設置の経緯を学芸員の方より、以下のご説明頂きましたことをご報告いたします。

- 1 なぜ「わだつみ像」は「はだか」なのか。
- 2 なぜ「わだつみ像」は立命館に寄贈されたのか。



総会の様子



総括討論

3 なぜ「わだつみ像」は立命館の象徴となっているのか。

4 資料としての「わだつみ像」にはどんな価値があるのか。

上記の説明をうかがう中で、現在は、二代目の像であることの実事を知りました。本来、大学は思想の自由、言論の自由が護られるべき「学問の府」のはずですが、学生の内部の様々な活動や外的な要因があり、初代の像が破壊されたことも教えていただきました。いわゆる瀧川事件なども含めて、過去に起きた事象を大学史は後世に正確に伝える責務がある。“負の歴史”と思われるような史実も誠実にお伝えいただきました。大変に参考となりました。

改めて学ぶことの多い研究会でございました。コロナ禍があけての試行錯誤の中、本研究会の対面開催のために尽力された関係者の皆様に心より敬意を表します。

追伸 平井嘉一郎記念図書館内の「加藤周一文庫」も見学いたしました。求めていた資料公開のスタイルとして、大いに参考となりました。

2023年12月19日（火）研究会

第135回東日本部会研究会参加記

学校法人立教学院 立教学院展示館 石井七海

2023（令和5）年12月19日に、全国大学史資料協議会東日本部会第135回研究会が開催された。本研究会は、5年前に新たに開館したばかりの新設博物館である昭和大学上條記念ミュージアムで行われた。研究会では、上條記念ミュージアムについて館長から講演をいただいたのちに、実際に館内を巡りながら学芸員及び学生スタッフの方々から展示などに関する説明を受けた。以下、簡単なレポートを試みたい。

まず、館長小口江美子氏からお話しいただいたミュージアムの概要については、次の通りにまとめられる。



上條記念ミュージアムは、昭和大学の創立者である上條秀介（1893～1956）の名を関する大学博物館である。昭和大学の創立90周年事業の一環として、上條秀介が掲げた建学の精神「至誠一貫」及び大学発展の歴史を確認し、現在・未来へと繋ぐというコンセプトのもと2019年に開館した。施設としては、上條記念館の地下2階に位置し、4つ

の常設展示室と企画展示室を有する。計5つの展示室では、学祖上條秀介についてだけではなく、大学の歴史や研究・教育活動といった、大学に関する幅広い資料を展示し、昭和大学の活動を余すことなく伝えている。

ミュージアムの概要について説明を受けた後は、地下2階にある展示室に移り、常設展示および第5回企画展「昭和の医療機器」を見学した。

上條記念ミュージアムは、開館時の目的に則ると、上條秀介（人物史）・歴史・医学という3つの要素を併せ持つ、複雑な性質を抱えているといえよう。それだけに、展示資料も、文書や書籍などの博物館ではよく見るものから、医療機器や漢方の原料といった医科大学ならではの珍しいものまで、多岐にわたっていた。

ここで、非常に興味深かったのは、学芸員小山氏による、展示を通じた「アイデンティティ教育」という話である。氏によると、展示を通じて、在校生や卒業生、大学関係者に対して昭和大学で学んだ医療人としての主体形成を呼びかけることを目指しているとのことだ。この「（昭和大学出身者としての）アイデンティティ教育」という柱が、人文科学から医学をも包括する多彩な要素・資料を、ひとつの展示として体系的にまとめあげていると言えよう。このような考え方は、大学博物館として至極一般的なものかもしれない。

しかし、ごく最近に地方自治体の博物館から大学博物館（立教学院展示館）に移った執筆者には、非常に興味深く感じられた。

このことに付随して、同ミュージアムが、在校生との距離がとても近い博物館であったことも追記したい。見学当日には3名もの学生スタッフの方々が展示案内に従事していた。また、過去の企画展の中には、学生の協力によって成り立っているものも少なくない。学生と共に展示空間を作っていくような運営のありかたは、大学関係者の「アイデンティティ」の形成を促すという館のコンセプトを、より説得的なものにしているように思えた。



また、同じく学芸員の小山氏からは、展示に係るコンセプトや解説だけではなく、同ミュージアムの資料整理に関する現状もうかがうことができた。同ミュージアムでは、昨年より2人の学芸員が週2日で資料整理にあたっているという。ミュージアム側は、学芸員を配置することで、秩序だった整理に基づく資料の把握・保管という博物館本来の業務をこなすことが可能になった。

一方で、学芸員は、通常の資料整理・展示制作に加えて、第5回企画展の主題でもある医療器具に代表されるような、特殊な資料

の扱い方を勘案しなければならない。この時に、大きな手掛かりとなったのが、医師たちからの証言だという。実際に医療現場で活躍している（いた）医師たちの証言からは、紙資料からは探れない器具の使用法や時期、場面などが特定できたそうである。

現役の医師たちからの情報提供が、資料整理や展示につながるというのは、医科大学の博物館ならではの話で興味深い。また、あるいは、文献には残りにくいような、経験や実体験に基づく情報という「資料」を収集した事例とも捉えることができる。言い換えれば、博物館施設におけるオーラル・ヒストリーの実践として位置づけることも可能なのではないか。

以上、上條記念ミュージアムは、医学系の博物館として、ほかには見られない特殊な面もあったが、普遍的な大学博物館の在り方を考えるうえでも、様々な示唆に富む博物館であったと言える。研究会の参加を通じて、執筆者は、新任なりにはあるが、大学博物館の在り方やその社会的役割について考えることが出来た。

最後に、昭和大学上條記念ミュージアムの皆さまがたへ、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

2024年1月25日（木）研究会

第136回研究会参加記 —NHK放送博物館—

学校法人関東学院 学院史資料室事務室 田中宏治

今回の研究会は、東京都港区愛宕にあるNHK放送博物館（以下、同館）において、同館学芸員である磯崎咲美氏の講演会および同館の見学を行った。

NHK（日本放送協会、以下、同協会）の博物館、資料館として、50年以上に渡って運営していたNHKスタジオパーク（渋谷区）は2020（令和2）年11月に閉館したが、今回訪問した同館が1956（昭和31）年に開館、NHKプラスクロス SHIBUYA（渋谷区）は2019（令和1）年11月1日に開館している。NHKプラスクロス SHIBUYAは、渋谷駅周辺の再開発に伴い同駅直結のビルに設けられており、場所的には有利な位置にあるが、当日訪問した同館（図1）は愛宕山の上であり、訪問には物理的にややハードルが高いと



図1 NHK放送博物館

事前には考えていた。しかし来場者は平日であった当日も多く、後述するような非常に興味が惹かれる展示方法および内容にその要因があると認識した。またこの愛宕山が日本で初めてラジオ放送が開始されたということが見学でわかり、ラジオの電波を飛ばすのに最適な当時の東京の中心地且つ、電波がよく飛ぶためにあえて高台であったのであるということを理解した。

同協会HPによると、同館は世界最初の放送専門のミュージアムであるとのこと、特に見学の際感じたが、同協会の歴史に加え、確かに放送全般の歴史展示に力が入れている。歴史と共に放送が大きな役割を果たしてきたことは事実であり、それを再確認させられる展示であった。

磯崎氏の講演であるが、演題は「視聴覚教育の歴史」というタイトルで特に同協会にこだわらない日本における視聴覚教育や放送の歴史についてであった。私は幼少からテレビで育ったいわゆる“テレビっ子”であるが、史資料に関わる仕事に就いている現在も放送を歴史的や史資料的な観点から観（見）たことがなく、ご講演内容は感心することばかりであった。

特に1925（大正14）年3月22日にこの愛宕山で開始されたラジオ放送に至るまでの経緯では、社団法人東京放送局（現在の同協会）初代総裁である後藤新平が関東大震

災の経験もあり、同氏が最初の挨拶でも述べたラジオの4つの機能、「文化の機会均等」「家庭生活の革新」「教育の社会化」「経済機能の敏活」が大きな施策であり、日本の復興計画の1つであったことがよくわかった。またそれが後に続くラジオ独自の芸術形式であるラジオドラマ、テレビ放送開始、学校向けの教育テレビ、テレビの普及に繋がり、さらに技術やICTの進歩によるVTR普及、インターネットやコンテンツによる教育にも繋がっている。教育効果をどう上げるか、何を使って上げていくかという選択肢が増えているのである。

ご講演後の見学は約1時間が取られていたが、気づけば1時間半見学しており、閉館時間過ぎまで滞在してしまっていた。

興味が惹かれた同館の展示（特にヒストリーゾーン（3F）およびテーマ展示ゾーン（2F））の要因であるが、見学者の人生に重ねて近づけていくような展示の仕方にあるのではないかと個人的に推測した。見学を順路に沿って進め、自分が何となく知る時代や箇



図2 放送の歴史や時代に沿った展示

所になっていくと、興味が惹かれていく割合が増加していく仕掛けなのである。（図2）

私の場合、3Fの「放送のはじまり」からしばらくの展示は生前で知らないものばかりであったが、「わが家にテレビがやってきた」や「テレビ時代の本格化」あたりの展示から知っている内容となり、その後の展示や2Fの「テーマ展示ゾーン」では「これは実際に観たことがある」「これは欠かさずに観ていた」「懐かしい」という共感になり（図3）、さらに食い入る様に見学してしまい、気づけば閉館時間という次第である。



図3 特に見学に時間を取った、番組に登場した人形のコーナー

今回は教育機関や自治体の資料館等とは異なる場所での研究会であったが、身近にあるもの（今回は放送）の歴史を改めて知ることと、興味が惹かせる展示方法、内容および体感という部分で非常に勉強になった。今後もこの視点を取り入れながら各資料館等を訪問、見学したいと考える。

全国大学史資料協議会

2023年度全国役員会議事録

日時 2023年10月4日(水)
12:30～12:50
会場 立命館大学衣笠キャンパス 創思館
カンファレンスルーム
出席 (東日本部会) 神奈川大学 國學院
大學 専修大学 帝京大学 東海大
学 日本大学 武蔵野美術大学 明
治大学
(西日本部会) 大阪女学院 関西大
学 関西学院 同志社大学 広島大
学 桃山学院 立命館

議事

- (1) 2023年度総会・全国研究会の運営について確認した。
- (2) 2023年度東西両部会の共同事業について、明治大学および大阪女学院から報告があった。
- (3) 研究叢書の制作部数について、東日本部会分を30部増加することとした。費用按分は制作部数にあわせる。

全国大学史資料協議会

2023年度全国総会記録

総会 10月4日(水) 14:00～14:40
会場 立命館大学衣笠キャンパス 創思館
カンファレンスルーム
出席 東日本部会機関会員23 同個人会
員0 同委任状提出機関会員26
同個人会員22
西日本部会機関会員19 同個人会
員2 同委任状提出機関会員6 同
個人会員7

議長 中央大学 副議長 中京大学

議題

- (1) 2023年度役員会の報告について、明治大学より報告があり、これを承認した。

- (2) 2023年度東・西日本部会事業計画報告について、明治大学および大阪女学院より報告があり、これを承認した。

記念講演会

日時 10月4日(水) 15:00～16:00
会場 立命館大学衣笠キャンパス 創思館
カンファレンスルーム
出席 (東日本部会のみ) 青山学院 お茶
の水女子大学 学習院 神奈川大学
國學院大學 相模女子大学 自由学
園 上智大学 専修大学 創価大学
中央大学 帝京大学 東海大学 東
北学院 東北大学 獨協学園 日本
女子大学 日本大学 法政大学 武
蔵野美術大学 明治大学 早稲田大
学

「創立者の再評価にどのように取り組むべきか? ～中川小十郎と戦前の立命館大学」

山崎有恒氏(立命館大学文学部教授)

〔概要〕2023年度総会后、「歴史の再評価のために」を大会テーマとした記念講演として、立命館大学文学部教授の山崎有恒氏より、立命館大学の創立者の一人である中川小十郎の実像とその再評価についての講演がなされた。戦前から戦後にかけての中川の活動や事蹟を新たに発掘された資料を元に追究することにより、西園寺公望と並んで学園創立の歴史を担った中川小十郎の再評価の必要性について、時代に則して具体的に紹介された。中川小十郎について新たに検証を加えることで、戦前から戦後にかけての立命館大学の歴史を再構築する必要についても述べられた。講演後の質疑応答では、中川小十郎の唱えた「ガーデニング理論」の出典についてや、創立者の再評価によって生じる既成の学園史イメージの変化を年史編纂に反映させることの難しさについての質問や感想が出された。

と大学改革 — 1960～70年代を中心に—
〔概要〕1960年代後半の大学運動とその後の大学改革について、紛争の経過を踏まえつつも紛争によって何がどのように改革されたかを中心に、東京大学と東北大学の2つの大学の事例から報告がなされた。1968年に医学部インターン問題を端緒に学生運動が起こった東京大学では、1969年1月に若手の教官を中心とした「大学改革準備調査会」を設置して大学改革の準備を始めた。翌年1月に「改革委員会」が設置され、1971年6月に「改革室」が設置された。改革室は1984年まで存続した。東北大学では1969年より大学紛争が一層激しくなり、同年11月に「東北大学改革準備委員会」が設置された。翌年11月に新たに第一・第二改革委員会が設置され、それぞれ東北大学の「理念と編成」「管理運営」に関する検討を行った。「大学改革」を掲げた組織は名称や目的を変えつつも、東大・東北大ともに1980年代まで続いた。共通するのは総長選挙制度の改革が一定程度実現したこと、教養教育の改革（東大は新キャンパス構想、東北大は新学部構想）が進められたことである。

（日本大学 上野平真希）

総括討論

司会 檜皮瑞樹氏（個人会員）

高橋和三氏（関西学院大学）

〔概要〕今回の総括討論ではZoomを使用せず、従来通り会場にいる参加者との質疑応答を行った。質問は、90年代の大学改革は60年代の紛争から切れていると考えているのか？その場合、学生運動をどう再評価するのか？他大学との相互提供のような横のつながりはあるか？現在起こっていることを将来の

評価に託すためには、どう資料を残していけばいいか？こんな資料が残っていれば良かったということや苦労したこと、資料がなくて愕然としたことはあるか？個人情報の開示について引っかけたことはないか？引っかけた場合はどうしたのか？など多く寄せられ、活発な議論の場となった。最後に再評価について、東北大学史料館の加藤諭氏が「大学紛争を経て大学改革をして、大学側が守った部分もあるはず。大学のアイデンティティとして残したものも、大学史の中で位置付けすることが再評価に繋がるのではないかと思っている」と語った。

（武蔵野美術大学 阿久津朋子）

見学会

日時 10月6日（金）10:00～12:00

会場 京都大学吉田キャンパス 百周年時計台記念館国際交流ホール

出席（東日本部会のみ）お茶の水女子大学 神奈川大学 相模女子大学 淑徳大学 専修大学 創価大学 中央大学 帝京大学 東海大学 東北学院 獨協学園 日本女子大学 日本大学 法政大学 明治大学 早稲田大学 西山伸 檜皮瑞樹

講演 西山伸氏（京都大学大学文書館教授）
「京都大学大学文書館における展示活動」

解説 渡辺恭彦氏（京都大学大学文書館助教）

「企画展「1969年再考」について」
見学 京都大学吉田キャンパス百周年時計台記念館1階歴史展示室

〔概要〕2023年度の見学会は、全国研究会3日目の10月6日に京都大学吉田キャンパスの百周年時計台記念館で10時から12時まで行われた。参加者は47

名であった。見学会は、まず記念館2階の国際交流ホールIを会場として、京都大学大学文書館教授西山伸氏の「京都大学大学文書館における展示活動」と題する講演から始まり、文書館の概要やこれまでの展示活動について詳しくご説明いただいた。次に、同文書館助教渡辺恭彦氏による「企画展「1969年再考」について」と題する講演が行われた。この企画展は2023年3月7日～7月2日に開催された、京都大学の大学紛争をテーマとした展示で、展示の内容について詳しくご説明いただいた。渡辺氏の講演は、今年度全国研究会で取り上げたテーマ「歴史の再評価のために」とも関連する内容であった。その後、記念館1階の常設展「京都大学の歴史」「第三高等学校の歴史」および企画展「京大生の「戦争」」を見学し、解散した。

(淑徳大学 桜井昭男)

全国大学史資料協議会

東日本部会幹事会議事録

第216回全国大学史資料協議会東日本部会幹事会議事録

日時 2023年10月4日(水)

13:00～13:20

会場 立命館大学衣笠キャンパス・創思館カンファレンスルーム

出席 神奈川大学 國學院大學 専修大学 帝京大学 東海大学 日本大学 武蔵野美術大学 明治大学

議題

(1) 12月研究会について

日本大学から12月19日(火)昭和大学で実施予定であること、会場費が発生することが報告され、これを承認した。

(2) 2024年1月研究会について

國學院大學からNHK放送博物館での開催を調整中であることが報告された。

(3) 研究叢書の発送先について

制作部数の増加に関して、現状の送付先について来年度部会総会で報告することとした。

第217回全国大学史資料協議会東日本部会幹事会議事録

日時 2023年12月19日(火)

12:30～13:00

会場 昭和大学旗の台キャンパス・上條記念館芍薬(品川区旗の台1-5-8)

出席 神奈川大学 國學院大學 淑徳大学 専修大学 大東文化大学 帝京大学 東海大学 日本大学 武蔵野美術大学 明治大学 立教学院 古俣達郎 檜皮瑞樹

議題

(1) 2024年1月研究会について

國學院大學から、2024年1月25日(木)にNHK放送博物館で開催することが報告された。

(2) 2024年3月研究会について

大東文化大学から配付資料に基づき、2024年3月14日(木)に大東文化大学板橋キャンパスで開催することが報告された。

(3) 2024年度東日本部会総会について

専修大学(事務局)から、中央大学多摩キャンパスで開催することで調整しているとの報告があった。

(4) 役員改選について

このことについて、意見交換した。

(5) 研究叢書の購入希望について

事務局(明治大学)から、玉川大学教育学部濱田英毅氏より照会があったことの説明があり、在庫を一括管理していないため、希望に添えないことを回答することとした。

(6) 会員情報の変更について
事務局（明治大学）から、明治学院
大学および立教学院の情報変更につ
いて報告があった。

第 218 回全国大学史資料協議会東日本部会
幹事会議事録

日 時 2024 年 1 月 25 日（木）

12:30～13:00

会 場 NHK 放送博物館 4 階
（港区愛宕 2-1-1）

出 席 神奈川大学 國學院大學 淑徳大学
専修大学 大東文化大学 帝京大学
東海大学 日本大学 武蔵野美術大
学 明治大学 立教学院

議 題

- (1) 2024 年度東日本部会総会について
事務局（専修大学）から、中央大学
多摩キャンパスを会場として検討し
ているとの報告があった。
- (2) 2024 年 3 月研究会について
大東文化大学から、配付資料 1 に基
づき、2024 年 3 月 14 日（木）に大
東文化大学板橋キャンパスで開催す
るとの報告があった。
- (3) 役員改選について
このことについて、意見交換を行っ
た。次回の幹事会で決定できるよう、
事務局校を中心に調整することとし
た。
- (4) 全国研究会等の会計按分について
東海大学から、メール審議の方法で
幹事に諮るとの報告があった。

全国大学史資料協議会

東日本部会研究会記録

第 135 回全国大学史資料協議会東日本部会
研究会記録

日 時：2023 年 12 月 19 日（火）

13:55～16:00

会 場 昭和大学旗の台キャンパス・上條記
念館（品川区旗の台 1-5-8）

出 席 神奈川大学 関東学院 國學院大學
相模女子大学 淑徳大学 女子美術
大学 専修大学 大東文化大学 拓
殖大学 多摩美術大学 帝京大学
東海大学 東洋大学 日本大学 法
政大学 武蔵野美術大学 明治大学
立教学院 阿部伊作 古俣達郎 下
間大輔 林慎一郎 檜皮瑞樹 山田
兼一郎

講 演（13:55～14:50）

小口江美子氏（上條記念ミュージアム館長）

「昭和大学上條記念ミュージアムについて」

見学会（15:00～16:00）

上條記念館 B1・上條記念ミュージアム

〔概要〕第 135 回東日本部会研究会は昭和大学旗の台キャンパス上條記念館にて開催された（対面のみ）。会長校である立教学院の豊田雅幸氏の挨拶の後、昭和大学上條記念ミュージアム館長の小口江美子氏より「昭和大学上條記念ミュージアムについて」と題して、ご講演いただいた。小口氏の講演では、1. 昭和大学のあゆみ、2. 学祖上條秀介博士、3. 昭和大学上條記念ミュージアム（設立経緯や展示内容等）について、それぞれ映像やスライドも交えて、詳しくご紹介いただいた。講演の後、グループに分かれて、上條記念ミュージアムの展示室に移動し、ミュージアムスタッフの方から解説を受けながら、常設展及び企画展「昭和の医療機器」を見学した。

（個人会員 古俣達郎）

第 136 回全国大学史資料協議会東日本部会
研究会記録

日 時 2024 年 1 月 25 日（木）

14:00～16:00

会場 NHK 放送博物館展示および4階
(港区愛宕2-1-1)

出席 お茶の水女子大学 神奈川大学 関
東学院 國學院大學 相模女子大学
女子美術大学 淑徳大学 専修大学
創価大学 大東文化大学 拓殖大学
多摩美術大学 帝京大学 東海大学
東邦大学 東洋英和女学院 日本大
学 法政大学 武蔵野美術大学 明
治大学 立教学院 亀谷篤志 喜好
可南子 齊藤浩次 下間大輔 橋本
久美子 林慎一郎 古郡信幸

講演 磯崎咲美氏
(NHK 放送博物館学芸員)
「視聴覚教育の歴史」

見学会 NHK 放送博物館

〔概要〕 國學院大学の渡邊卓氏を司会として、東日本部会長校である立教学院展示館の豊田雅幸氏の挨拶から始まった今回の研究会は二部構成で行われた。一部では、NHK 放送博物館学芸員の磯崎咲美氏が「視聴覚教育の歴史」と題した講演を行った。報告は、「視聴覚教育」とは何かという前提となる説明から始まり、関東大震災をきっかけとして始まった「放送の歴史」の概略を説明した後、「日本における視聴覚教育歴史」「テレビの教育専門局の誕生」「教育工学とは」と、時代的変遷を追いながら、NHK がラジオ・テレビ放送を通して教育にどのように貢献してきたのかについて、貴重な映像資料を駆使して話をしていただいた。

報告後の質疑応答では、國學院大学・渡邊卓氏、お茶の水大学・奥田環氏、関東学院大学・田中宏治氏、日本大学・岡子まほろ氏より、報告に関わる、またはNHKにおけるアーカイブズに関する質問がなされた。

次いで二部として、参加者それぞれが

NHK 放送博物館の展示見学を行い、そのまま解散となった。

(専修大学 瀬戸口龍一)

全国大学史資料協議会東日本部会 会員名簿 (2023年8月末日現在)

- 1 愛知医科大学 アーカイブズ 医学情報センター (図書館)
- 2 愛知大学 東亜同文書院大学記念センター (豊橋研究支援課)
- 3 青山学院 資料センター
- 4 跡見学園女子大学 IR・大学資料室
- 5 大妻女子大学 大妻女子大学博物館
- 6 お茶の水女子大学 歴史資料館
- 7 学習院 学習院アーカイブズ
- 8 神奈川大学 大学資料編纂室
- 9 関東学院 学院史資料室
- 10 国立音楽大学 校史資料室
- 11 慶應義塾 福澤研究センター
- 12 恵泉女学園 史料室
- 13 皇學館大学 研究開発推進センター
- 14 國學院大學 校史・学術資産研究センター
- 15 国際基督教大学 ICU アーカイブズ
- 16 国土館 国土館史資料室
- 17 国立女性教育会館 情報課
- 18 駒澤大学 禅文化歴史博物館大学史資料室
- 19 相模女子大学 アーカイブズ室設置準備室
- 20 芝浦工業大学 経営企画部企画広報課 図書館
- 21 自由学園 自由学園資料室
- 22 淑徳大学 淑徳大学アーカイブズ
- 23 上智大学 ソフィア・アーカイブズ
- 24 女子美術大学 歴史資料室
- 25 成城学園 教育研究所
(成城学園百年史編纂室)
- 26 聖心女子大学 管理部総務課
- 27 聖路加国際大学 法人資料編纂室

- 28 専修大学 大学史資料室
- 29 創価大学
- 30 大東文化大学 大東文化歴史資料館
(大東アーカイブズ)
- 31 拓殖大学 拓殖アーカイブズ事業室
- 32 玉川大学 教育博物館
- 33 多摩美術大学 大学戦略室 大学史担当
- 34 中央大学 広報室 大学史資料課
- 35 津田塾大学 津田梅子資料室
- 36 帝京大学 帝京大学総合博物館
- 37 東海大学 学園史資料センター
- 38 東京経済大学 図書館・史料室
- 39 東京女子大学 大学運営部総務課 大
学資料室
- 40 東京電機大学 総務部(企画広報担当)
- 41 東京農業大学 図書館事務課
- 42 東邦大学 額田記念東邦大学資料室
(法人本部経営企画部)
- 43 東北学院 東北学院史資料センター
- 44 東北大学 史料館
- 45 東洋英和女学院 史料室
- 46 東洋学園大学 東洋学園史料室
- 47 東洋大学 井上円了哲学センター 井
上円了記念博物館
- 48 獨協学園 獨協学園史資料センター
- 49 富山大学 アーカイブズ 総務部アー
カイブズ事務室
- 50 名古屋市立大学 大学史資料館
(教育研究部学術情報室)
- 51 南山学園 南山アーカイブズ
- 52 日本獣医生命科学大学 付属博物館
- 53 日本女子大学 成瀬記念館
- 54 日本体育大学 図書館
- 55 日本大学 広報部広報課(大学史)
- 56 フェリス女学院 歴史資料館
- 57 法政大学 HOSEI ミュージアム
- 58 北海道大学 大学文書館
- 59 武蔵野美術大学 大学企画グループ教
学企画チーム 大学史史料室
- 60 明海大学 浦安キャンパスメディアセ

- ンター(図書館)
- 61 明治学院 歴史資料館
- 62 明治大学 大学史資料センター
- 63 明星学苑 学苑連携推進グループ
- 64 立教学院 立教学院展示館
- 65 立教女学院 資料室
- 66 立教大学 立教学院史資料センター
- 67 立正大学 学長室 大学史料編纂課
- 68 早稲田大学 早稲田大学歴史館
(東伏見アーカイブズ)

以上
機関会員 68・個人会員 38 名・名誉会員 5 名

ご案内

全国大学史資料協会および同協議会
東日本部会に関するお問い合わせ、入
会申し込みは、下記へご連絡ください。

【明治大学史資料センター】

〒101-8301

東京都千代田区神田駿河台1-1

TEL : 03 (3296) 4448

MAIL : history@meiji.ac.jp

【専修大学大学史資料室】

〒102-8275

東京都千代田区神田神保町3-8

TEL : 03 (3265) 5879

MAIL : archives@acc.senshu-u.ac.jp

会報編集

【大東文化大学 大東文化歴史資料館】

〒175-0083

東京都板橋区徳丸2-19-10

大東文化大学徳丸研究棟

TEL : 03 (5399) 7646